

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773201484		
法人名	けいはん医療生活協同組合		
事業所名	グループホームきんだ		
所在地	大阪府守口市金田町25-15		
自己評価作成日	平成27年7月11日	評価結果市町村受理日	平成27年9月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年7月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり一人の要望や要求に応じて、その人らしさを尊重した日常生活を支援している ・毎日1回は外出できるように声掛けをして実施している ・デイサービスの利用者と一緒に日常家事の分担を決めて、できるだけ継続して実施していただいている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地下鉄谷町線大日駅からバス停三つ目の比較的アクセスの良い場所に事業所は位置している。当事業所への訪問は3回目となるが、以前と同じように利用者夫々が自分の暮しのペースで、ゆっくりとした時間の流れの中で、他の利用者および職員との共同生活が続けられている。前回訪問時までは事業所内に利用者が自治会を構成した活動が行われていたが、利用者の高齢化、ADLの進行等の理由から行われなくなったが、残存能力のある利用者は掃除等の家事を分担して「当番表」に従って元気に活動している。近隣との交流にも積極的であり、調査当日も町内会の世話役が事業所で行う「そうめん流し」の準備打合せに来ておられた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームでは我慢せずに暮らしているように「本音」という理念を掲げていると同時に「人が好き・笑顔が好き・この街が好き」という言葉も掲げている。”ずっと元気にこの街で”が法人の理念の実践にもつながっている。	「人が好き、笑顔が好き、この街が好き」と表現された理念が玄関に掲げられている。庶民的な地域の暮らしにマッチした印象があると感じる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物時に地域の方に挨拶を交わしたり、盆踊り・秋祭りなど地域行事に参加している。近隣の商店や理容室を利用している。公園の掃除にも職員が参加している。	開設当初から地域との交流に熱心である。幼稚園との交流、地域行事への参加、職員による公園清掃等の地域貢献活動も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方への事業所内での取り組みなど介護かわら版ニュースにして配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回取り組んでいる。民生委員さんが必ず参加していただき、地域の様子を教えてください。家族の参加は少ないが入居者が地域に出ていけるような取り組みの相談をしたり地域からの要望など聞いている。	地域の代表者が協力的であり、事業所からの運営状況の報告などの情報公開を行い、地域からは行事への参加要請や呼びかけがされ、会議の目的が達成されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方が8割おられケアワーカーさんとの交流あり運営推進会議にはお誘いするが参加なし。	利用者個々の事例(困難事例を含め)について行政の担当窓口と連絡を密にした連携が確保されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束だけではなく、言葉の拘束や行動の拘束にも注意している。虐待防止マニュアルに基づいてケアをおこなっている。学習会を行い職員意識を高めている。	法人全体の職員研修のカリキュラムの中で、身体拘束をしないケアの実践に関する研修が徹底されている。職員は利用者個々の事例ごとに職員間で対応方法を話し合い拘束防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルがあり学習計画に基づいて年に1回は学習をおこない、スタッフ間でも防止に努めている。階下のケアプランのミニ学習会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	将来、必要性のある方についてはケアワーカーさんと密に連絡を取り合うよう検討しており今後職員間で学習を進めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時は必ず時間をとり質問は丁寧にお答えし納得していただけるようにお話しをさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	医療福祉生協連のアンケートを年に1回実施している。	利用者および家族に対して、法人のISO活動の中で「介護サービスの品質の確保」の観点からアンケートが行われ課題発見の情報収集が行われている。家族の訪問時には健康状態や暮らしぶりを詳しく報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にておこない日々の業務に活かしている。	管理者、職員間の情報共有、チームワークは良好と思われる。管理者は職員個々の強みや個性を尊重して職員育成にも努めている。スタッフ会議への職員参加が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	MBO に基づく、役割や個人目標書を作成し、自らが目標をもって業務できる環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外(大阪民医連)の研修や・学習会への参加の取り組みが計画されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	守口市GH連絡会等に参加しコミュニケーションをとり相互訪問などで自事業所を振り返り、サービスの向上につなげていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	早くなじめるよう個々の状況を早く理解し、スタッフ全体で共有しケアにあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問題発生時すぐにスタッフでのミーティングをおこない問題の早期解決、入居者、家族の不安を除去に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向を確認してからの行動を基本にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を呼び掛けやまた、介護の方向性についてもその都度相談し、入居者、家族の希望を最優先にし生活の中で入居者様と一緒に行動しよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の友人へ行事の参加を呼び掛けたり、面会の際はゆっくりしていただけるように自室での対応も勤めている。かつて住んでいた地域の食堂や喫茶店に行き交流している。	入所前の生活情報を把握して、事業所での暮らしに中でも継続するように支援している。馴染みのお店、美容院などを訪問できるように支援している。近くにオープンしている大型スーパーでのショッピングも楽しみの一つである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係を把握し極カトラブルが起きないように席順や散歩時の組み合わせなど考慮。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅へ戻られる際、在宅での生活がスムーズに行くように関係事業と十分に連絡をとり在宅に戻られた後、自事業所のデイサービスを利用されている方にはデイサービスに顔を出しコミュニケーションをとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の要望要求があればカーデックスに記入しスタッフ全体で共有検討している。	入所の段階で、事業所での暮らし方について利用者本人の思いを聞き取り、家族の意向を確認して、ケアプランに反映させている。日頃の本人との関り中で得た情報も記録して、職員で共有するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に入居者、家族から話を聞いたり、日常生活の中で聞きだしたりしており、カルテに記入しスタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の記録で、会話を記入して、心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングでおひとりずつの関係者から十分な聞き取りの上、入居者本位の計画を作成出来る様に努めている。	利用者希望、家族の要望を聞き取り、関係者やかかりつけ医の意見を参考にして、日頃の関る職員の情報をベースに支援目標、支援方法を介護計画書に表現して実践し、モニタリングから計画の修正に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録に加えて入居者カーデックス等も使用し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診など、家族では対応できない場合、同法人内の診療所に送迎を頼みスタッフが同行するなど柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに来ていただき、歌や踊り等入居者の希望で観覧させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携を密にとり、診察の結果等での治療方針等は入居者、家族に選択してもらい、信頼して頂ける様に努めている。	家族や本人の希望を優先してかかりつけ医の選定を行っている。契約医療機関(同系列である)による往診により早期発見、早期対応の医療支援体制を確保している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特に、さつき診療所との連携を密にして、看護職員を通じて、主治医の指示を常に仰ぐことができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は頻回に面会を行い、状態把握等に努め、帰所時の生活がスムーズにいけるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の希望をきいて、はっきりしている場合はカルテに記載し、情報を共有できるようにしている。	入所の段階で、重度化及び終末期における家族の意向を聞き、事業所の方針及び体制を説明して家族の同意を得ている。さらに、対応が必要になった時点で再び家族の意向を確認し、看取りの希望がある場合は対応する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、落ち着いて行動出来る様にしている。AEDの設置も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や夜間を想定した訓練を定期的におこなっている。地域に施設内の入居者のリストを提出し、災害時も協力して頂けるようにしている。	併設の事業所を含めた建物全体で防火管理者を設置して防災計画を設定している。定期的な避難消防訓練も消防署の協力を得ながら行っている。近隣の協力も得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	食量、バイタルサイン、排泄なども申し送りを行い、変化にすぐ対応できるように努めている。	法人全体の職員育成研修計画の中で、接遇、利用者人格の尊重、プライバシーの確保、個人情報保護に関する研修を受講し、日常の関りの中で職員間で対応の内容について問題点はないか、確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も納得できるまで話し、なるべく入居者本位で生活できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方等は、特別な行事の日を除いては其々入居者から出る希望をもとに行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪などは体調、天候等に配慮し、希望時に希望の店に行ける様努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その場に応じて手の空いた入居者から盛り付けをしている。片付けも体調に配慮し自分のものは自分で片づけして頂くようにしている。買い物時に希望のあるものを購入し、楽しみを持っていただいている。	事業所の1回に厨房があり、併設の通所介護事業所と共同で食事が提供される。盛付、配膳は事業所で行うが、多くの利用者が食事準備に参加して、生活リハビリとしても活用されている。	グループホームの特徴である「家庭的な雰囲気での暮らし」の観点から、職員も一緒に食事をするという点について職員で話し合っ欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表で食事を管理し、体調にあわせた内容にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の診察結果からを参考にして、口腔ケアをに力を入れているようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくオムツ、リハパンの使用をしないで済むように、入居者に合わせて、時間誘導等で対応している。	日中は出来るだけおむつ、リハパンを使用しないようにトイレでの排泄を心掛けている。そのために、排泄記録を元にタイミングの良い声掛け誘導に努め、自立した快適な排泄を目標にした支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量もチェックし、便秘気味になった場合は調理内容の工夫、牛乳やヨーグルト等で対応し、なるべく自然な排便を心がけており、毎日の散歩も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望や体調等を考慮して入浴の時間を柔軟に対応している。	入浴は隔日を基本にしているが利用者の希望を優先した柔軟な対応となっている。拒否がある場合や体調不良の場合は日を変えたり、清拭に切替えて清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活ペースに合わせて行っている。しかし、居室への閉じこもりの無い様に適宜声かけ等を行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報提供書をファイルし、いつでも見ることができる。処方薬の変更時は、なぜなのか理由を聞いて、スタッフ間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	性格や職歴を参考にして、大工仕事をお願いしたり調理をお願いしている。女性は台所仕事、掃除を好まれ自分たちの毎日の役割としてスタッフと共にされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前午後の散歩は、希望者を募り、体調や天候に配慮して行っている。買い物等も希望時は対応している。	出来るだけ外出の機会を作るように努力している。近所の公園までの散歩、スーパーでの買い物、大型スーパー(イオン)訪問、守口市の市民施設(ムーブ21)訪問などを工夫した外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の強い入居者には、理解の上決まった金額を渡しトラブルの無い様に金銭管理をきっちりおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話操作を介助したり、郵便の手続きを行うなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のカレンダーをイベントに合わせて手作りしたり、お正月やクリスマスなど季節毎の飾り付けを工夫し、心地よい空間の提供に努めている。	利用者が多くの時間を過ごす食堂、リビングはゆったりとしたスペースが確保されている。廊下の幅も余裕があり、壁の飾りつけも家庭的な雰囲気となっている。	現在、事業所内は土足(履き替えなし)となっているが、家庭的なしつらえという観点からすると少々違和感がある。検討してみたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにテレビ、廊下奥にソファを置き少し隠れて話せる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やタンス等使いなれたものを置いて使用して頂いている。	居室は清潔である。仏壇や家具などが持ち込まれて、本人が落ち着いて過ごせるようにしつらえてある。職員の利用者への心遣いが感じられる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やバリアフリー等工夫している。		